「僕の先輩の話（ショート版）」

三毛猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
「僕の先輩の話（ショート版）」

【Ｎコード】
Ｎ０９３１ＢＡ

【作者名】
三毛猫

【あらすじ】
――今年の三月に卒業した僕の先輩は、人魚だった。その先輩から先日手紙が届いて。
【先輩】【人魚】【車椅子】のお題で書かれた掌編です。
以前ｔｅｘｐｏにて公開していました。現在ｐｉｘｉｖにても「三毛猫の三題話」の一遍として公開中です。

今年の三月に卒業した僕の先輩は、人魚だった。
「足がないので陸の上では歩けないんだ」と言って、いつも車椅子に乗っていた。
学校の噂話では、交通事故で下半身不随になったことを認められずに、自分を人魚だと思い込んだ可哀想な女の子だと言われていた先輩だけれど、僕は赤いひざ掛けの下を覗いたことがあるので本当のことを知っている。
そんな先輩から、先日手紙が届いた。海の底からでも郵便届くんだな、とちょっと驚いたけれど、消印を見ると日本だった。夏休みにでも、遊びに来ないか、という内容だった。

約束の日時に指定の海岸で待っていると、海から先輩が「ひさしぶり」と顔を出した。
普通の白いビキニタイプの水着だったので、貝殻のブラじゃないんですね、と言ったら「貝殻じゃ痛いもの」と先輩は笑った。
先輩に連れられて沖の方に出ると、だいぶ水が冷たくなった。
不意に先輩が、僕にキスをした。びっくりして慌てていると、「潜るよ」と言って先輩が僕の手を引いたまま海中に潜った。
「陸の上ではキミと一緒に歩くことができなかったけれど、海の中なら一緒に泳ぐことができるよ」と先輩は微笑んだ。「キミと一緒に泳ぎたかったんだ」
どこへでも一緒に行きますよ、と僕が言うと、無言で先輩が僕を抱きしめた。
どこに行くのかはしらないけれど……。

（後書き）

ショート版とついているのは、短編版を書いているからなのですが、現在短編版は放置中です……。このお話には、明るい解釈（先輩は本物の人魚）と「先輩と一緒に心中（先輩は人魚じゃない）」があって、ショート版に限っては、読まれた方の判断におまかせします。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0931ba/

「僕の先輩の話（ショート版）」

2012年1月2日01時48分発行